

第四回根室市創生有識者会議議事録

日時 平成27年9月7日（月）13時00分
場所 北海道立北方四島交流センター「ニホロ」
2階交流ホール

1. 開会

（事務局）開会

2. 市長挨拶

本日は、お忙しい中、4回目となる根室市創生有識者会議にご出席いただき、ありがとうございます。

前回の有識者会議では委員の方々より、子育て支援分野など全部で16の提案をいただきました。

また、根室市からも提案をさせていただいてありますが、総括しますと、大事なことは実行する施策の優先順位を明確にすること。そして、優先順位の高いものから実現していくということが、戦略として重要であるとの助言をいただいたところであります。

市では各委員からいただいた提案や助言を参考にしながら、根室市創生総合戦略（素案）として取りまとめました。

本日の議事は、審議事項として根室市創生総合戦略（素案）について説明した後に、素案に対するご意見をお伺いしたいと考えております。

限られた時間ではありますが、有意義な意見交換をさせていただきたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

3. 審議事項

（事務局）根室市創生総合戦略（素案）第1章、第2章について説明

議事（素案 第1章、第2章に関して）

（石井委員）人口目標は設定が難しいので、どの水準がいいのかというのは、だいぶ幅がある印象があります。その中で、減少抑制という視点で策定していますが、超長期の人口というのは評価が難しいので、様々な計画を実施される中でこれを最終目標値にせず、これからの市政を進める中で常に見直ししていくという姿勢さえあればよろしいのかなと思います。

（事務局）根室市創生総合戦略（素案）第3章 基本目標-1について説明

（素案 第3章、基本目標-1に関して）

（米満委員）かなり具体的な施策があげられていると思います。質問と、こうした施策が良いのではないかという点があります。「②子ども医療費補助など子育て世代の経済的な負担軽減の推進」の具体的な事業の「不妊治療費助成事業」ですが、私と同じ年代で不妊に悩んでいらっしゃる方がいると聞いており、かなりの経済的負担を強いられています。すでに不妊治療補助は実施されており、継続事業であると思いますが、これからの若い世代、就労している20代から30代後半の方たちへの支援を手厚くするこ

とが出生率向上にも貢献すると思いますので、是非、拡充を検討していただければと思います。

(篠島委員) 素案の中の「②子ども医療費補助など子育て世代の経済的な負担軽減の推進」については、高校生にとってもありがたいことだと思います。ただ、次の(イ)周産期医療と小児医療体制の整備 ①安心して子どもを産み育てられる周産期医療と小児医療体制の整備の中の医療従事者のUIターン返済免除などありがたい制度だとは思いますが、例えば公務員で戻ってくる人もいるので、確かにどこかで限定しないと、どこまでもいってしまうのは分かるのですが、根室高校での実績としても医療従事者として進学する生徒がそんなには多くない。

このため、もう少し現実的なところで支援されると、大学に進学して、またここに戻ってくることを検討したいという子が増える可能性があると思います。

(本間委員) まず、第一印象として総花的でどこに力を入れるのかわからない。我々報道関係に携わるものは、どこが見出しに使われるのかを意識して原稿を書いている。そういう意味で、この素案の見出しはどこだろうと思う。

もう一つは具体性に乏しい。数値目標として5年で分娩できる医療施設1か所というように、非常に具体的な目標を掲げているにもかかわらず、(イ)周産期医療と小児医療体制の整備 ①安心して子どもを産み育てられる周産期医療と小児医療体制の整備の項目の具体的な事業をみると、旧態依然でまるで変わらない。変わっているとしたら、UIターン返済免除型というのが多分新規で、今までは確か半額免除だったと思います。そうだとすると、このUIターン返済免除というのを売り込むことになるのかと思いますが、そうした場合に、どういう形で、何年で、あるいはだめな場合はどうする場合なのかなど、具体的に盛り込まれないとよく分からない。例えば、防衛医科大学というのは、防衛医科大に勤務する場合は返済義務がゼロ、しかも毎月の給料もでます。これだけ、優遇しても他の病院に流れていく割合が一定程度ある。古い数字ではありますが、3割くらい流れているとも聞いている。

このUIターン返済免除型というのが全国的にどのくらい実施されているのか。もし、他にないとなれば、有効な方法にはならないのかなと思います。

つまり、そういう観点からみると、この街は何を求め、そして今、早急に何が欲しいのか。それを重点的にきちんと提示して、これが欲しいとなればどれだけお金が必要なのか、あるいは人がいるのか、そういうことを明確に書かなければならないと思います。他の市町村を6つか、7つくらい調べてみましたが、そこをきちんと書いているところが多い。こういう総花的なものよりもこの街はこういうことをしていく、というものを明記しないとイケない。ただ、出せばいいというものではないと思います。

(事務局) 今の本間委員からの意見についてはしっかり検討していきたいと思いますが、1点だけ誤解がないようにと思います。

「医師及び医療従事者修学資金貸付事業」ですが、医師に関しては、年額360万円、看護師については、年額120万円を修学している4年間なり、6年間なりで支援しています。それと、修学資金の貸付を受けた期間と同じ期間、根室市内で勤務すると全額免除するという制度となっています。

先ほど、半分とおっしゃっていましたが、全額免除となっています。

(廣田委員) 今の自分の企業の状態から判断しますと、結婚していない独身の男性が多い。やはり、家庭をもって安定した基盤をもとに仕事に従事してもらいたいという気持ちがあります。ただ単に、婚活イベントが増えれば結婚が増えるとかいうのではなくて、経営している立場からいうと、給料でも待遇

でも、もう少し良い状態にできればそれに越したことはないのですが、今の産業基盤から将来の事業展望を考えた時に、現状ではなかなか厳しいという中で、若い人たちに夢を与えていけるような企業経営の展望が難しい。私がそう思っているくらいなので、勤務している若い人たちは、結構不安になっているのではないのかなと思います。

企業経営からすれば、私どもの企業は水産加工ですから、根室市の将来に対して厳しい展望を持つのですが、将来の根室市に期待し夢をもてる環境づくりをしないといけないと思うので、婚活というものも非常に難しい側面があると感じています。

(平賀委員) 私は、幼児教育に関わっていますので、②子ども医療費補助など子育て世代の経済的な負担軽減の推進の新規事業に「多子世帯保育料無料化事業」があり、すごくありがたく思っています。

現在、保護者の方々や、市民意識調査で根室市が住みにくく感じている理由をみると、やはり産婦人科問題が一番大きいのと、子育て環境として遊ぶ場所がないということが大きな理由となっています。

このことによって、すぐに人口増加ということには結びつくものではありませんが、根室市に住んでいる若い女性が、これからも根室市で住み続けられるという気持ちづくりが大事だと思います。

そういう遊び場づくりというものも目標の中に掲げていただけると良いと思いますし、一部の保育所で行われている一時保育について、もう少し内容を見直し拡大していく必要があるのではないかと思います。急なことへの対応では、なかなか対応してもらえないのが現状で、事前に申し込みが必要です。

働く女性を支援するというのであれば、集団生活の中での感染症や発熱といった場合には、保護者の方にお返しすることになるので、地元におじいちゃん、おばあちゃんなど頼れる人がいない場合、自分の仕事が終わるまで少しでも見てもらえるところがあると良い。

(濱松委員) 皆さんの発言がそのままだと思いますが、根室市が他の都市よりも魅力があるということになれば人口も減らないと思います。

将来の人口推計を見ますと、若い人、生産人口の減少割合が大きくなるのでしょうか、全体の戦略の中に老人対策というのが抜けているような感じがします。老人の減少数は3,000人くらいとなっていますが、この方たちが根室市にいた方がいいのか検討する必要があると思います。施設サービスが他市町村よりも魅力があるということによって、他からの受入という部分も含めて老人対策となるのではないかと。そこをお願いしたいと思います。

それから、長期中期、短期の考え方でみると、皆さん方の意見からも医療の充実というのが最重要と思います。それから、子育て、教育ですが、根室市の素案を見ますと、例えば、義務教育の給食費が無料となる施策についても、第1子からとか、第2子からということにしないで、全員を無料化にすることが必要と思います。財源を考えると大変でしょうが、これは根室市の案を国に提出して、国から支援を受けるという形になるのかなと思うので、それであれば第3子以上というように限定しないで第1子から対象とすることで、子育ての充実に貢献するのではないかと思います。

もう一つ、北方領土の問題については難しいでしょうが、根室市の特殊性を踏まえ、産業、生産に繋げる方法がないものかということを考えるなかで、北方領土、ロシアとの交流を考えると、返還運動だけではなく、経済交流や学術交流など根室市を起点にして簡単にいけるということになれば、経済交流やインフラ整備に参加しやすいという環境づくりを、難しいかもしれないが国と協議し要望することが重要ではないか。これは根室市しか対象にならないものだと思います。

根室市の産業を拡大させるためには、山がないとなかなか難しい、それが全くないという状況ですから、新しい企業を呼ぶということはなかなかできない。水産と酪農を振興する、拡大するしかないわけ

ですので、これにプラスしてロシアとの関係を進めることが根室市で働く場所を確保することに繋がるのではないかと思います。

(濱田委員) 全体として、目標を高く設定することは良いと思うのですが、果たしてどれくらい到達できるのかと懸念するような指標もあります。今後、見直さなくてはいけないものもあると思っています。

1点だけ細かなことですが、質問させていただきたい。(ア) ③保育施設の整備と多様な保育サービスの充実の中で、新規の保育所整備事業の内容で適正配置を含む総合的な整備とあります。適正配置という私のイメージとしては、小学校や中学校のように学校数を減らすというようにイメージするのですが、保育所に通所している子どもさんの保護者にとってみれば、朝の忙しい時間帯、勤務に出かける前に、子どもを預けて行くとする、保育所までの距離が遠くなると非常に利用しづらくなると思います。

この適正配置の中身についてご説明をいただければと思います。

(事務局) 現在、市民福祉部で検討しているなかでは、児童数が減少する中で、市内には公設の保育所が3つ、民間の保育所が1つという4つの保育所があります。今でも個々では定員に満たないという状況にあります。もうひとつ、宝林保育所がありますが昭和40年代、50年代に建てた保育所ですが、老朽化しており、十数年にわたってその対応に苦慮してきているところです。

このように、施設の面や児童数の面から、民間施設を含めどのような設置と、収容が必要かという視点で保育所の再編を考えているところです。宝林町、松本町、駒場町、琴平町に施設がありますが、超過定員にならないように各施設を考え、保護者の方の負担にならないように検討します。

小学校でいえば通学区のような考え方で、既存の施設も含め、どの場所に新たな施設設置が適切であるのか、市街地全体をみながら配置を検討しようとしております。この5年でなんらかの形がでてくるものと期待できることから、この戦略に盛り込ませていただきました。

(石井委員) 計画の立て方として、具体的な事業を書いているが、これを優先的、時間的にどうやって進めていくのかが見えにくいので、総花的というのはそういう部分だと思います。

その部分というのは別のところで検討していると思いますが、重点的というよりは、時間的に早くやるもの、少しゆっくりやるもの、に分けることが必要ではないか。

全部が大事だということも分かりますので、絶対的な基準設定は難しいですが、すぐに取り組むもの、少し時間をおいて取り組むもの、さらに時間をおいて考えるものなど、2段階か3段階くらいに事業を整理すると、より具体的になってくるのでお願いしたい。

それと、目標の立て方で具体的なのは良いですが、5年間で分娩できる医療施設1ヶ所というようなゼロサムのような目標設定が果たして良いのかと思います。要するに、成果がゼロ点か100点かというような目標の立て方は、なじみにくい感じがします。

それと、その部分の評価として対象者の満足度が、ばらまきに近いほど厳しくなったり、やさしくなったりする。評価の基準が分からない面があるので、あまりやらない方が良いのではないかと思います。

(伊藤委員) 将来の目標を達成するための方向性にあるように、我々には深刻すぎる問題を抱えている状況が分かります。少子高齢化という問題を頭で理解はしても肌で感じてはいないのではないかと思います。我々団塊の世代は、どこも子だくさんで、兄弟も多く、自分たちは結婚しある程度抑制した生活をした結果がこうなっているわけですので、我々の団塊の世代が一番悪かったのかなと思っています。

どうして今の若い人たちの考えと、我々団塊の世代の考え方にギャップがあるのかを知るために、若

い人たちに声掛けをすると、それはセクハラだとか、パワハラだとかといった批判を受けていた。ですので、人のことはあまり介入することは良くないと考えてきたのですが、今回、思い切って若い人たちの意見を聞きたいということで、約30名の職場の若い人たちにこの根室市創生総合戦略に対する意見を聞いて市にFAXさせて頂いた。

初めて若い人たちの意見を見て、肌で感じた印象を踏まえながら今日の素案をみると、よくまとまっているという印象を持ちました。確かに先ほど指摘があったように、総花的な部分もありますが、石井委員の話にあったように、超長期の計画は難しいと思います。ですから、これを作ったから良いということではなく、途中で点検、見直しをする必要があるという意見に賛同します。

若い人たちの欲する問題がこの素案によくまとまっていると思いますので、まずは、実施していくことがこの深刻な状況の中では必要ではないかと思います。

(岡野委員) 私が気になったのは先程もでていました第3子以降の保育料無料化ですが、現在お子さんがゼロ人、1人のところが現実的に3人目から無料になるから頑張ろうかなという気になるかどうか、なかなか厳しい感じがしますので、そこをもう一度検討いただければと思います。

あとは、これから具体的なことを検討されると思いますが、(ア)子育て・少子化対策の推進①の具体的事業の中の「乳児家庭訪問相談事業」ですが、保健師等による家庭訪問は現在も実施していると思うのですが、保健師の資格を持っている方が限られていると思うので、気軽に相談できるようなもっとゆるい資格もあると聞いているので、そういう資格の方の活用も考えた方がいいと思います。

(川前委員) 数値目標を4つ挙げられ、その中に5年間で分娩できる医療施設1ヶ所とありますが、他の市町村もそうですが、来てもらえる産婦人科医の方が本当にいるのだろうか、厳しいのかなという感想を持っています。

具体的な事業も挙げていますが、どうしても高度医療を受ける時には、小さいお子さんをもった母親が子どもと一緒に他の市町村で、医療を受けることがある際には経済的負担も大きくなるので、そうした支援を受けられるとか、ファミリーハウスを自治体で持つとかといった具体的にできそうなことも事業の中に盛り込んでいくと、子育て世代の方たちも根室市で住んでいこうかなと考えるのではないかと思います。

先程、婚活の話がありましたが、今の若い人たちにとって、そうした場を持つことも実は大事なきっかけとなっていると思います。世代によっては、「どうなんだろう」と思う方もいらっしゃるでしょうが、今の若い人たちをみると、ハラスメントのこともあって異性と出会う機会ができにくいし、ハードルが高いような気がしています。ですので、こうしたきっかけをつくるということは非常に大事なことだと思います。

(浄土委員) 今の漁協組合員の状況を見ると、後継者はいるが結婚していない。独身だから子どもが生まれません。今はセクハラであるとかでなかなか立ち入ったことはできないが、昔は近所に世話役の人がいてお見合いをさせたりしていたのですが、今はそうしたことがない。

時代が変わったのか、自分で料理や洗濯をするので、特別奥さんがいなくても良いという感覚になっている。そういう時代になっているのかどうか分かりません。

少子化対策は、素案のとおり実行してもらえれば良いと思うのですが、まずは結婚してもらわなくてはならないと思います。

現実として40歳代、50歳代で独身の方もかなりいます。結婚する人はだまっけても20歳代で

結婚している。このため、この頃は20歳代、30歳代の独身者が少なくなっている。婚活イベントをやるのであれば、是非、そういう年齢層の方も加味してもらいたい。

素案については、確かにどれに焦点を絞っているかという意見もありますが、良くできていると思いますので、まずは着実に実行することが大事だと思います。

(石井委員) かなり体系的に施策を出していただいたという印象ですが、全体でどこが大事なのかと言うと、安心して子どもを産むという環境をつくることだろうと思います。そこを医師と看護師の確保という一点目標とすることではなく、現状でどう改善していくかをきちんと考えていただいて、最終的に医師の確保を目指すという流れをきちんと描いた方が現実的だし、ミスリードしないのではないかと思います。全体としては、広域で少子化に歯止めがかからないと難しいため、広域で産科医師の確保を目指すのであって、根室市だけ医師が確保できればいいという目標は現実的ではなくなる可能性もあるのではないかと。短期的に医師が確保できればラッキーではあるけれど、中長期的に広域で対応するという体制づくりを考える方がよろしいのではないかと。

あと、経済的な不安を取り除くということですが、子どもが幼い頃の費用というのは、ある程度支援されているのであまり大きな問題ではなく、むしろ高等教育への進学に対するなんらかの支援が、数は少なくとも必要ではないかと。

あと、若い女性を確保する、居なくならない、あるいは連れてくるという制度も、この部分に入るのではないかと、素案の後半にあまり入っていないように思うので。

雇用開発的なところはどこまで実施できるか分からないが、市役所を含めて男女雇用均等を進めないといけないと思います。各事業所に啓蒙していくとか、女性の雇用というものを意識していただいた方がいい。それと、婚活というマッチングも大事なことです。マッチングする相手が市内にいないわけですので、市外から連れてくるということを考えないといけない。ただ、婚活のためだけに連れてくるということではなく、お試し居住とか、職業体験とかというアイデアをもう少し入れた方がいいと思います。

(廣田委員) 私たち、根室市に長い間住んでいる者にとって、待望の新しい市立病院ができたばかりである。これを地域として充実させてもらいたいと思っており、その第一が市内の市立病院で分娩できるようにしてもらいたいと思っている。これまで長い間設備も悪く、待望の施設ができたところなので、そこをなんとかしてもらいたいというのが市民の願いである。

(事務局) 根室市創生総合戦略(素案)第3章 基本目標-2について説明

(素案 第3章、基本目標-2に関して)

(米満委員) 私が今回提案した案も盛り込んでいただいております。根室市応援ファンドの創設、事業承継もありますので、これを実施するということになれば、我々金融機関も全力を挙げて根室市発展のために貢献していきたいと考えています。これ以外の施策につきましても、これからの時代の変化とともに臨機応変に見直していかないとない部分もあると思いますので、引き続き市役所や皆様方にご提案をしていきたいと考えております。

(養島委員) 先程申し上げたように修学資金貸付制度に関して、もう少し狙いを定めて、医療従事者と同じような具体的なものがでてくれば良いと思う。本当に戻って来ることに狙いを定めた方が良い。

それと、交流人口のところで、例えば母子家庭への手当を厚くして、母子家庭に的を絞った移住を進めるなど、特徴のある内容にしてもらえれば良いと思います。

(本間委員) この部分についても、何か特化したものが欲しいなという気がします。とにかく、産婦人科医師ということであればこれに特化した支援が必要ではないか。

結局、医師が2人以上いないと分娩ができないということなので、仮に分娩が再開したとしても1人欠けると、そこで途切れてしまう。途切れないようにするためには、継続的に外から産婦人科医を連れてくるということではなく、根室市で産婦人科医を育てるというシステムが必要ではないか。

時間がかかっても給料を払ってもいいから、そういう人が戻ってくるような環境を作った方がよろしいのではないかと思います。それがないと、何回も途切れて、途切れるたびにこういう議論を繰り返すことになる。抜本的に解決していくためには、根室市出身の産婦人科医が帰って来れるような仕組みが必要ではないかと思います。

それから、私はこれまで朝活を提案してきましたが、せっかくの根室市における地勢的な特徴を上手に利用し、人を呼び込むというものがあって良いのではないかと思います。一番必要なのは、最初の回から意見がでていたように、若い女性をいかに引き留め、いかに連れてくるかということだと思います。

若い女性が、働く場がないから来れない、出ていくということ無くすような施策の目玉が必要である。例えば、根室市には色々なジャンルの料理店や美味しい専門店がない。どういう人材が根室市に必要なのかということ掲げて、大々的にインターネットで募集する。あるいは、市役所に「若い女性を求む課」みたいなのを作って、そういう人材を募集することをワンストップで行う。そういう見出しどころのある施策が欲しい。

(廣田委員) 今の話のように美味しいものを食べさせるところがないというのは、そのとおりである。

せっかくいい水産物があるのだから、もっと美味しく食べれるところがあっても良いのではないかと思います。それから、「根室産水産物取扱認証制度登録店」というのがありますが、これは具体的にどのようなことを想定されているのでしょうか。

(事務局) 今年から試行的に進めておりますが、例えば春の産品であるトキシラズを使って、札幌や東京の店舗で調理したものを提供している、外食産業と提携して根室産品を使う店舗を全国に増やしていくという取り組みです。今は、トキシラズに限定しているのですが、これをもっと増やしていくことを考えております。

(廣田委員) 私は、そういう市が認証するとかいう制度には反対です。美味しい店とか、いいものを取り扱っている店というのは、消費者が選択して決めていくものです。今はこういう時代なので、うわさは良くても悪くても飛び交います。ですから、そういう認証とかではなく、我々水産加工の業界としては、他産地と競争して生き残っていくためには、根室市として何をしていかなければならないのか。

それは常に消費地で競争に打ち勝っていかなければならないということで、当然、他の産地に負けないものを作っていくという気持ちで取り組んでいますから、行政が認証ということに取り組むのは筋違いなかなと思います。

(平賀委員) 例えば、「まちなか賑わいづくり事業」というのがありますが、根室市内には空き店舗が目立ってきて寂しいという感じがしています。このことについても、例えばお母さんたちの中でも自分の得意なもの、ジュエリーとかアクセサリーを上手に作って個別にやりとりしている人もいますが、そういう取り組みを、空き店舗を使って発表の場であったり、アトリエ的なものを始めていくことになれば、もしかしたら、それが起業に結びつくかもしれないと思います。あと、移住のところでは、家族そろって移住となると、難しいこともあるかと思うので、山村留学のように子どもたちを先に根室に呼び込むとか、そういうやり方もあるのではないかと思います。

(濱松委員) 私たちも努力していかなければならないのは、ハサップへの対応。ソフトの面とハードの面を進めていかなければならないと思っています。外部との差別化を図っていくためには、ハサップ対応をしていかなければならない。それは全部に繋がっていくと思っています。

(濱田委員) なでしこバンクですが、労働力として考えた場合に、資格があっても必要性がなければ働く場がないということになる。根室市でどういう人材が、どういう資格をもった人材が必要なのかを明確にすることが必要だと思います。

それと「産学官連携研究開発事業」についてですが、大学のあるまちとないまちでは、活気が違うと思っています。ですが、大学を根室市に設置するというのは難しいので、研究機関との連携ができれば、学生の目標ともなるしまちの活性化にもつながるので、進めていただければと思います。

(伊藤委員) 「漁業後継者担い手確保育成支援事業」がありますが、漁業のイメージは3Kのイメージである。3Kのイメージで、嫁さんは来ない、40代、50代の独身が多い、組合員の継承も少なくなってきた。どこの組合員も少なくなってきた。

根室市の基幹産業の衰退にくさびを打つためには、漁協の取組はもちろんであるが、漁業後継者を確保することが必要であり、もう少し規模を拡大していくことが必要である。

それからUIターンの問題であるが、有名なのは海士町で、ここでは町財政を投入して、住宅の提供から、牡蠣の養殖等の6次産業化に力を入れており、それが進むことによって海士町の高校生が大阪辺りから相当増えてきている。学力水準は、大阪と比較して高いわけではないと思うが、住みやすいという前提でそういう状況になってきている。このUIターンを進めるためには、一方で出て行く人を引き留めなければならないと考えると、よほど腹をくくらないと出来ない。

UIJターン創業者への利率低減事業といった内容では、難しいのではないかと。

これに対して、「シニア移住就職支援金制度」ですが、これは転居費、家賃、生活支援というようなことが行われることになっている。シニアを引き入れるとなると、将来また負担が大きくなっていくので、労働者人口を増やすというUIターンに対する支援に思い切って力を入れる必要があると思う。その他については、今まで議論して内容が良くまとまっているのかなと思います。

(岡野委員) 人材確保対策事業についてですが、都市部での合同企業説明会ということで、どれだけ成果があるのか見えないところがある。先日、軽犯罪を犯した人の再犯が多いという理由のひとつとして、職がないということが考えられ、ある企業ではそういう人を採用して更正させていくというのがあり、そういう企業が最近増えてきているという状況もある。そのままというわけにはいかないかもしれないが、的を絞って求人していくことも必要ではないかと思っています。

以前、弊社でも北海道全域に募集をかけたことがありますが、問い合わせの中で、家賃が高いとい

うことを説明すると、取り止めるということがあった。素案の中には、UIターンの方への住宅助成とか、シニアの方への支援はあるのですが、純粋にこちらで就職される方の住宅取得に対する支援の拡充をもっと検討してほしい。

(川前委員) 交流人口の拡大のところ、もう少し指標を高くしても良いのかなと思いました。もしもというところで述べさせていただくと、地域おこし協力隊推進事業で情報発信として都市部から移住女性の配置というのがあるが、男性についてもあえて挙げておいた方が良いのではないかと思います。母子家庭だけでなく、父子家庭もけっこう多いと思うので、父子家庭でも安心して暮らしていけるという施策も根室市だとできるのかなと思いました。

(浄土委員) 若い女性を増やすということが大目標であると思うのですが、その割には、素案の中でそういう事業がどれなのかなという疑問があります。そこにある程度手厚く全面に出していく必要があるのではないかと。例えば、介護従事者修学資金貸付制度についても、その後の生活についてもある程度面倒みるといったことも必要ではないかと。また、その辺の企業についてもどうするのか、ある程度企業の誘致も進めていかなければならないと思います。

(石井委員) 仕事に関わる部分も具体的に書いていると思いますが、これまでの議論を踏まえて、観光事業というものをどういう風にしていくのか、新しい柱として大事だと思います。その中でも特に、自然ガイド等育成事業ということが書かれていますが、自然環境に加えてソフトの部分というのが非常に大きくなると思うので、この部分というのは非常に重要だと思います。これは、育成とは書かれていますが、教育、研修という部分に加えて、定着していくまでに冬場の雇用や、居住に対する支援も含めて取り組んでいくことが重要だと思います。他の施策についてもそうですが、他とは違った部分も見せていくことが必要ではないかと思います。ものすごい人数は来ないかもしれないけど、質の高い自然観光地として定着させるということを大きな目標の一つにされるのが良いと思います。

それと、女性を支援するというのであれば、例えば女性の創業支援にファンドを付けるとか、個々の事業をバラバラに行うといったイメージではなく、いくつか包括したイメージを出して、重点施策であるという言い方をした方がよろしいと思います。

産学官連携事業は今までの取り組みが不足しているという部分では要請も高いし、なおかつ漁業の養殖展開を目標にすると思うので、この辺も積極的に取り組んでいくターゲットの一つではないかと感じました。

全体では、やはり漁業と酪農という一次産業に依存する経済構造であることを考えると、そこに対する雇用の戻しみたいな議論も重要であるので、その場合、単純に後継者と言ってしまうと従来型の施策となってしまう。3Kイメージをどう変えるかということも問題提起して、これまでと異なる一次産業を作っていくことを考えた上で、雇用の戻していくことを是非進めてもらいたいと思います。

その部分は核となる考えのひとつとなるので、トライアンドエラーになるかもしれないが、非常に重要な部分だと思います。

それと港町ということで、地価の問題もあると思います。住宅というのは案外、雇用を支える重要な視点であるという部分であり高めていく必要があると思います。低廉で安定的な住居、一戸建てではなくても、集合住宅をうまく提供するということが、賃金を補うという部分も高いので、就業の場の提供とセットで住宅を考えていただき、使い勝手の良い住宅を借りれるという部分をサポートしていくことが重要だと思います。

他のまちでの議論を思い出したのですが、教育環境、特に高校というのはすごく大事で、どこの大学でも行けるといって高校をどう作るかというのは、18歳までの人口をどう確保するかという議論をする上で重要である。あるところでは、予備校的なものを作るという議論がでていたところもあった。それが良いとは必ずしも限らないが、高校までの教育課程をもっと充実させるための取組も必要かなと思いました。その部分が抜けているかと思いました。

(事務局) 根室市創生総合戦略(素案)第3章 基本目標-3について説明

(素案 第3章、基本目標-3に関して)

(養島委員) 学校がどれくらい使われていないのかを把握していませんが、これから市内の学校にも空きがでてきますし、教育施設だけでなく、道などとの調整も必要な施設もあるでしょうが、有効活用をしていかないといけないと思います。

(本間委員) 若い人向けということではないのですが、湯布院などに行くと、おじいちゃん、おばあちゃんが、生き生きと子どもたちに遊び方などを教えている人たちの顔つきは、非常にいい老後を過ごしているなと感じます。残念ながら、ここではゲートボール、パークゴルフというようなところにしか老人がいないということを考えると、こういう学校とかの施設を利用することを考える必要があると思います。ここに若い人たちが住んでいて、自分たちも何十年後かには、今の高齢者たちのようになるのかなと思うと暗澹たる思いになるのではないかな。そういう思いになるから出ていくという人も多いのではないかな。そうならないような仕組みづくりにお金が使われるような発想の転換が必要ではないかと思いました。

(廣田委員) 将来の人口ビジョンで推計されているように、平成72年の人口になったときには、基本目標3に書かれている市民サービスを維持するとあるが、行政サービスを行う将来の市役所の体制がどうなっているのかということを感じました。

(平賀委員) 基本目標1のところ、「(仮称)地域子育て支援センター」の設置を目指すとの記述がありますが、何らかの支援を必要とするお子さんがすごく増えていて、根室市の児童デイサービスセンターに色々な支援を受けたいと4月に申し込んでも、いまだに何の連絡もない。

早期の支援が受けられないというお子さんがたくさんいます。現在、市民グループで根室市に特別支援学校を設けてもらえないかという活動も進んでいますが、こうしたなか空いている学校などの施設を使って、地域子育て支援センターを設け色々な相談窓口が機能すると、若いお母さんたちも助かると思いました。

(濱松委員) とくにありません。

(濱田委員) 「ふるさと納税」ですが、素案にあるような色々な事業を実施するとなると、お金がかかります。経常的に入ってくる税金が一番望ましいでしょうが、私の周りにもふるさと納税を考えている人がおり、一般的には返礼品目当てに寄付する方がおられると思います。

一過性の収入なので、持続するのは難しいと思いますが、事業を推進する上で重要な財源ということ

であれば必要かなと思います。

特に、全国各地に根室会という会を作って活動されておられるし、自分でも収めたり、ふるさと納税を広めていきたいと考えています。

(伊藤委員) 先程、石井先生から漁業の労働環境の改善という話がありました。特にコンブの場合は、家族ぐるみで操業し生計を維持しているという中で、どうやって改善していくかと悩んでいます、いずれにしても3Kのままで良いわけがないので検討していきたいと思っています。

既存公共施設の有効利用では、現在、旧華岬小学校でスポーツセンターの整備が行われていますが、旧共和小学校と旧瑠瑠小学校は空いたままです。旧温根元小学校は民間の方が、何かをしたいという希望があるようです。私共も、旧共和小学校にコンブの倉庫や直販所に転用できないか、それによって雇用が図られればということで現在、検討しているところです。ただ、改造や付帯の建設なども必要となるので費用対効果を検討中です。資金調達の方法も含めてやれるかどうか検討していきたいと思っています。

(岡野委員) 地方創生に関する民間企業等職員受入事業は、非常にいい事業だと思います。市役所の方も、他で先進な取組をしている自治体があれば研修に行ったり、色々なものを見ていただければと思います。

(川前委員) 基本目標3では、「みんなで実践する」とありますが、数値目標では、女性人口の目標が立てられているので、市民の方たちに女性ばかりに注目している、というように思われなくした方がいいと思いました。確かに若い女性に注目はしていますが、女性からみると、少し負担にならないかなと思いますので、活字にするときに、配慮があれば良いと思います。

(浄土委員) 基本目標3の基本的方向にありますように、様々な分野の方針決定過程への女性参画促進は、大変良いことだと思います。また、中高生といった若い方たちも良い意見を持っている人が多いので、是非参画させてもらえると良いと思いました。

(石井委員) 市民協働という概念は重要だとは思いますが、行政代替というような意味にも捉えられることもあるので、そうならない様うまく持っていくこと。それと市民活動も色々変化してきているので、従来の市民活動は難しいのかなと思います。

むしろ、生きがいつくりの意識を入れていく。役に立つことに関わりたいという意識が強くなっていると思うので、一緒になって創って行こうというイメージが必要だと思います。

これからは、老人も若者や子どもたちと接する場が多くなると言われているので、そういう部分も入れたら良いと思います。

遊休資産の活用はすごく大事なことだが、お金を戻すために活用するという意味と、地域のために活用するという意味がある。後者の場合は使用料を取らない、その代わり使い方は一緒に考え、活用は民間でもかまわない。私は、後者の使い方の方がおもしろい使い方ができるのかなと思います。

あと、財政ですが一般会計の中で調整していくということで、ふるさと納税を核とすることに関しては、あまりにも脆弱な財源なので違和感がある。上手に書いた方が良いと思います。

(事務局) 根室市創生総合戦略(素案)第4章について説明

(素案 第4章に関して)

(本間委員) まず、目標を決め締め切りを決める。一番大きな目標は、若年層をどうするかということだと思います。その目標に向かって、「中長期的にやらないといけないこと」「今からやらないといけないこと」「1年後にやらないといけないこと」「2年後にやらないといけないこと」「5年後にはやらないといけないこと」というように、デッドラインから遡ってやることを決めて、毎年状況をチェックしていく。できていない部分があれば、その分来年に実施するというように取り組まないと実現しないのではないかと思います。どの項目を何年までにやるということを決める。あるいは、まずやらないといけないことを決める。それが、柱になることだと思います。

だとすると、それを目立たせるような形で目標を書いていってほしいと思います。

(石井委員) 今、本間委員が述べたこと。5年間でどう有効にステップアップしていくかということ第4章に入れ、どういう手順で、どれから始めるかということも入れることで、「急いでやるもの」「少し時間をかけてやるもの」「難しいから少しあとからやるもの」などを明確にすることで、重点的な施策の展開が示される。そういう部分をイメージづけると取り組みやすくなると思います。

また、パッケージ化して実施するものをはっきりさせると、より共通の問題意識が持てると思います。

せつかく取り組むので、その辺を工夫すると具体性がある計画になると思います。

むしろ、ギリギリのところで行き詰るので、トライアンドエラーの部分があっても良い。割り切ってもらえると良いと思います。

やらないリスクよりも、やって失敗するリスクの方が低い。やって失敗したら、失敗しない方法を考える、ということがこのPDCAサイクルに既に含まれている。これは皆さんの共通認識だと思う。

行政の方は一番そういう取組を恐れると思うので、従来一番やってはいけないやり方だと思うが、肝に銘じて取り組んでいただきたいと思います。

(事務局) 本日、有識者の皆様から「事業を整理し、短期、中期、長期にわける」「優先順位を踏まえて見せ方を工夫する」という意見をいただきましたが、そういったご意見を踏まえ総合戦略を策定していきたい。

また、市民からの意見を募集するため当素案によりパブリックコメントを実施します。

市民からの意見、有識者会議での意見を踏まえて、10月下旬に予定している次回有識者会議で、総合戦略原案を皆様にお示しさせていただきます。

10月下旬の会議につきましては、日程調整をさせていただいた後ご連絡させていただきます。

(市長) 本日は大変活発な討議、また貴重なご意見をいただき、まことにありがとうございました。

ただ今、事務局から連絡があったとおり、今回は策定に係る最後の会議ということであり、10月下旬に開催し総合戦略原案をご審議いただく予定です。10月末での策定完了に向け、作成作業を進めていきたいと考えておりますので、委員皆様のご協力をお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。